

低密度植栽造林地の調査(1,500本/ha植栽したスギ・ヒノキの成長)

HA当たりの植栽本数については、保安林であれば指定施業要件を遵守、保安林以外の林地では地域森林計画等に沿って植栽が行われている。

主伐・再造林の増加が見込まれる中、造林の更なる低コスト化を図ることや苗木の供給不足に対応するためには、現在の植栽本数より少ない1,500本/ha植栽等について検証が必要。

当局管内の各森林管理署等が10年ほど前に取り組んだ低密度植栽箇所について、その地域における成長等がどうなっているかを森林技術・支援センターで調査中。

- ・調査時期：平成26年12月～平成27年3月
- ・場所：長崎森林管理署等 8署・支署

スギ：平成16年植栽（H27年3月の様子）



ヒノキ：平成16年植栽（H27年3月の様子）



造林地におけるシカ害防止対策とコストの実証のための調査

シカの生息区域の拡大や生息密度が高くなるなどして、造林地等へのシカ被害が懸念される場所であり、シカ被害防止のために出来るだけ安価なシカネット張り工法の検証が必要。

九州局では、「立木を活用したネットの斜め張り」「人工支柱を使ったネットの斜め張り」「立木伐採後の枝条等を活用した寝かせ張り」について功程調査を実施し、今後、他の工法も調査しながら、どの工法が効果的なのか検証していくこととしている。

- ・調査時期：平成26年12月～平成27年3月
- ・場 所：北薩森林管理署、熊本南部森林管理署、熊本森林管理署



斜め張り(立木)



斜め張り(人工支柱)



寝かせ張り

民国連携した成果報告会

○森林・木材関係研究機関による合同 研究成果報告会

- ・日 時 : 平成26年12月10日
- ・場 所 : 宮崎市
- ・発表機関 : 宮崎県林業技術センター
宮崎県木材利用技術センター
宮崎大学農学部
森林技術・支援センター
- ・参加者 : 九州森林管理局・宮崎県職員、宮崎大学
職員及び学生、林業関係者 約120名
- ・森林技術・支援センターの発表者(写真)
業務係長 田中 和利

【概要】

当報告会は、県主催で実施していた報告会に、H25年度から当センターが、H26年度から宮崎大学が加わり、宮崎県内の研究機関による成果報告会として実施。

当センター業務係長田中和利より、「エリートツリーから多様な林業の可能性を考える」と題して、当センター試験地のエリートツリーの上長成長の早さから、下刈回数削減による造林の低コスト化と、通常より短いサイクルでの収穫の可能性について提案。



会場の様子



発表の様子

合同研究発表会

○九州地域研究発表会 ー九州地域の林業活性化に向けてー

- ・日 時 : 平成26年10月28日
- ・場 所 : 熊本市
- ・発表機関 : 森林総合研究所水土保全研究領域
// 九州支所
// 森林バイオ研究センター
森林技術・支援センター
- ・参加者 : 九州森林管理局、森林総合研究所職員、
各県職員、林業関係者 約150名
- ・森林技術・支援センターの発表者(写真)
森林技術専門官 釜 稔

【概要】

当報告会は、森林総合研究所の九州支所と林木育種センター九州育種場が主催していた発表会に、今年度から九州森林管理局が共催として加わり実施。

当センター釜稔森林技術専門官より、今後の主伐・再造林を考えると、再造林の低コスト化が課題であり、そのためには当センター試験地に植栽し順調な成長を見せているエリートツリー(植栽後、2成長期を経過して樹高が150mを越えている)を活用することで下刈回数の削減や収穫サイクルを早くするなど多様な林業の可能性が期待されることについて報告。



発表の様子



全体質疑の様子

民有林支援の取組紹介

○シカ捕獲対策について

1. くり罠と捕獲のための安全用具
2. 巾着式あみはこわなの設置実演

(宮崎県森林技術センターからの要請に応じて実施)

- ・日 時 : 平成26年10月15日
- ・場 所 : 宮崎県美郷町(森林技術センター)
- ・参加者 : 県、市町村、森林組合、猟友会、鳥獣保護員等(約30名)
- ・説明者 : 当センター職員4名

【概要】

- ・シカ被害の状況やシカの動態等について説明後、くり罠について紹介し、仕留めるときの安全用具についても、研修生に実際に体験して頂きながら説明、意見交換
- ・「巾着式あみはこわな」の仕組み等を説明後、森林技術センター内試験林で、4班に分かれてスギ立木等を活用してわなを設置し意見交換



くり罠を説明する様子



わなの構造・仕組を説明する様子

先進的取組の紹介

○巾着式あみはこわなキャラバン (長崎県からの要請により実施)

時 期 : 平成26年8月4~5日

場 所 : 長崎市三和行政センター 大会議室

参加者 : 各市町、市町鳥獣被害対策実施隊、農業
関係団体、県関係機関ほか 約100名

説明者 : 森林技術・支援センター
副所長 後藤 寿也
業務係長 田中 優哉



【目的】 ニホンシカ被害対策の一環として、安価、軽量
で設置が早い「巾着式あみはこわな」の普及

【内容】

- ・シカ被害対策等について国有林の取組状況を説明、地元の被害状況等を聞き意見交換
- ・「巾着式あみはこわな」の仕組み等を説明、意見交換
- ・翌日、現地で一緒に設置し意見交換



現地検討会

○コンテナ苗(ヒノキ)植栽地での現地検討会 (平成26年度コンテナ苗供給調整会議及び生産技術向上検討会)

時期：平成26年7月24～25日

場所：熊本森林管理署 ヲダラ国有林1135林班(阿蘇市)

参加者：森林総合研究所、九州各県担当者
九州各県の苗木生産者
九州森林管理局 約80名

説明者：森林技術・支援センター
森林技術専門官 釜 稔
業務係長 田中 優哉

【内容：当地での植栽3年目の結果】
根元径はコンテナ苗と裸苗は同程度
樹高はコンテナ苗の方が裸苗より20cm程度高い



尾根より右：コンテナ苗

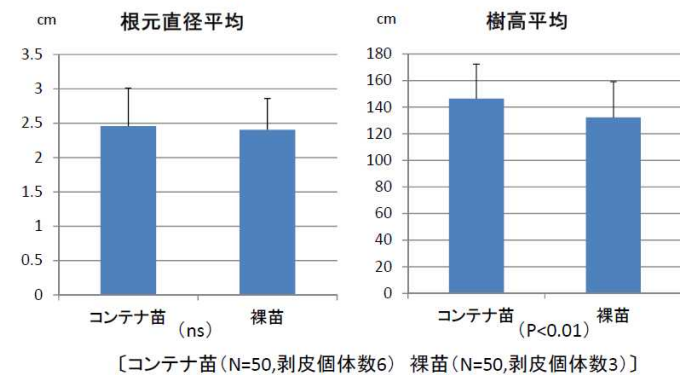
植栽時に使用した苗 (H23. 3)



コンテナ苗
(約40cm前後)

裸苗
(約40cm前後)

成長データ(H26.6)



- ・根元直径については、コンテナ苗と裸苗は同程度
- ・樹高については、コンテナ苗の方が裸苗より20cm程度高い

先進的取組の紹介

2014/06/27 日南市役所

○コンテナ苗を活用したスギ再造林 (日南市からの要請により実施)

時 期 : 平成26年6月27日

場 所 : 日南市

参加者 : 飼肥分収造林組合連合会
日南支部組合員ほか 60名

説明者 : 森林技術・支援センター
副所長 後藤 寿也
業務係長 田中 優哉

【目的】

コンテナ苗について理解してもらうことと
国有林での取組を普及

【内容】

コンテナ苗を活用した一貫作業システムによる
低コスト再造林の推進



コンテナ苗を活用したスギ再造林

九州森林管理局
森林技術・支援センター

- 1 はじめに
- 2 コンテナ苗とは
- 3 植栽工程
- 4 初期成長
- 5 特性
- 6 コスト
- 7 まとめ

1

1 はじめに

背景

- 国内の人工林の多くが伐期に達し、各地で主伐増加と同時に更新も増加
- 一方、材価の低迷等により林業の収益性は悪化し、再造林の意欲が減退

目的

- いかに再造林コストを縮減できるか

2